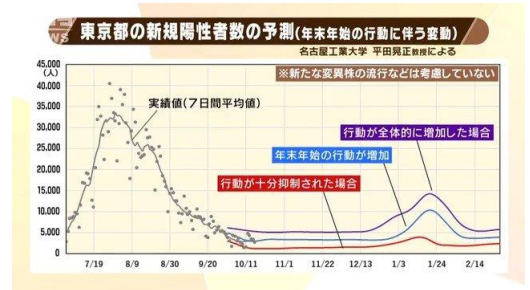


*** 今日の健康 (11月) ***

＜ コロナ第8波はあるのか ＞

2022年1月第6波の主流だったオミクロン株 BA.1.1 が緩やかに BA.2 に移行し、6月～8月の第7波で、BA.2 が変異した「BA.2.75」(通称:ケンタウロス) が出現し、これまでとはいろんなタイプが合わさり全く異なる特徴を持つことから、ギリシャ神話の半人半獣に例えて「ケンタウロス」と呼ばれ、感染力は「BA.5」の3.24倍で感染力が強いことが分かり、日本ではオミクロン「BA.5」から「ケンタウロス」への置き換わりが進む可能性がありましたが、日本人は1月に BA.2 感染を一度経験していたことから、ケンタウロスはあまり広がらず、日本人にとっては BA.5 の方が感染力が強く、第7波では「BA.5」が主流で大流行しました。同時期にインドをはじめ世界各国ではオミクロン BA.2 株ベースで別系統である BA.2.75 株 (通称ケンタウロス) の報告が多くありました。

第8波はこれから12月流行が懸念されており新たな変異株「BQ.1.1」「XBB」が日本でも確認されています。2023年1月頃に小さい山になりそうだという予測で、行動が全体的に増加した場合でも、第7波の2分の1以下にとどまるのではないかと推測されています。呼吸器系のウイルスは冬に流行しやすく、去年末、一昨年の年末もイベントがあるときに流行してしまった特徴があります。



新たな変異株、オミクロン株「BQ.1.1 通称:ケルベロス」は、アメリカ、イギリスなど48カ国で報告されアメリカの最新データでは全体の7.2%と推計されています。日本では10月17日時点検疫11件、国内6件が確認されています。

そしてもうひとつ新たな変異株、オミクロン株「XBB 通称:グリフォン」は、インドなど21カ国で確認されていて、シンガポールの最新データでは全体の54%(10月3日～9日)と推計されています。9月時点で6%だったので、1ヶ月で急増したということがわかります。日本では検疫で7件確認されています。XBB系統は重症度は不明ですが、ワクチンの効果がやや弱まるということです。

これら2つの変異株の広がり方は、感染力が強くなりかなりの勢いとスピードで、これまでのものにとって代わるものと見られていますが、毒が強くなっているとは考えられていません。

変異株のニックネームは、いわゆる BA 株の中で、いろんなタイプが合わさった BA.2 の亜型に最初にケンタウロスと通称名をつけられ、BQ.1.1 と XBB、も同じで、ケルベロス (ヘビとイヌ)、グリフォン (ワシとライオン) ですから、違うものが合わさっているということで通称名が付けられました。

オミクロンの特性は、免疫を逃避するような、いわゆるスパイクたんぱく (突起の部分) が変異していきます。簡単に言うと免疫を逃避すれば感染力は増します。ですが、重要なのはやっぱり『毒力』です。今のオミクロンはあまり強いものではない。ただ、高齢者と基礎疾患を持たれている方は要注意と言えます。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り もみじ山公園バス停裏